

### 3 期目就任式挨拶（2021/9/21）

おはようございます。

この度の村長選挙におきまして、村民の皆様からの温かいご支援を賜り、引き続き村政運営を担わせていただくこととなりました。

これまでの8年間は、どちらかと言えば、様々な課題を解決することに注力してまいりましたが、これからは、村の将来を描けるような新たな取組みにも挑戦してまいりたいと考えております。

是非、職員の皆さんも、チャレンジ精神を忘れずに、職務に精励していただきたいと願っています。

私が副村長として東海村に来てから、今年で12年目となります。私が今、こうして、村長としてこの場に立っていることは、まさに天命であると受け止めております。私にとって、人生の大きな転機ではありましたが、「地方自治とは」「行政とは」「まちづくりとは」など、職員時代（一公務員としては）とは違った視点で、いろいろと考えさせられることも多く、村のリーダーとして様々な経験を重ねてまいりました。

そうした中で、皆さんに改めて申し上げたいことは、

この村に対する「想い」「情熱」「愛着」というものを持って欲しい！

ということであります。

役場職員として、冷静に秩序を守り正しく仕事をすることは当然であります。私達はサラリーマンではありません。仕事の対価として給与は頂いていますが、その仕事の先には、必ず村民の姿が思い浮かぶのではないのでしょうか？

「今、何をなすべきか？」「村民のためにどうすればいいのか？」ということを考えながら、「気持ち」や「モチベーション」を強く持つてください。

また、今回の選挙結果を踏まえると、これまでの私の村政運営に対しましては、一定のご理解を得られているものと受け止めておりますが、一方では、政策やその進め方に対して、不満を感じている方々もいらっしゃると思います。やはり、私たちには、説明責任が求められており、しっかりとその責務を果たしていかなければなりません。

特に、事業の見直しは、役場内での議論において「あるべき論」が先行しがちであり、サービスの受益者である村民の皆さんに「どう説明するのか」ということを考えておかなければなりません。

最後まで、説明責任を果たすということをお忘れなく。

今の東海村は、豊かで活力もあり、38,000人という人口規模も維持できています。しかしながら、出生者数の減少は急激に進んでおり、将来的には、若い世代が減少していくことが予想されます。そして、若年世代の減少は、地域社会の支え合いや地域経済の活性化に多大な影響を与えることとなります。こうした課題に真正面から取り組み、5年先10年先に成果を出していくために、今こそ、新たな発想で大胆な政策に挑戦していかなければなりません。

私のリーフレットをご覧になった方も多いたと思いますが、「理想のまちをつくる」というキャッチフレーズを使って訴えてきたところです。これまでの「持続可能なまちづくり」や「新たな共生型の地域社会を目指して」という考え方を堅持しつつ、この村の将来像として、村民の皆さんと一緒に、誰もが幸せを育める理想の「まち」を目指してまいりたいと考えております。

この「理想のまちをつくる」ためには、「みらい」をつくる。「ひと」をつくる。「ふるさと」をつくる。といった3つの視点が大切であると考えています。

「みらい」をつくる。という視点では、50年先も便利なインフラ整備が欠かせないこと。村と原子力は、過去・現在・未来へと時を経ながら繋がっており、しっかりと向き合っていかなければならないこと。

「ひと」をつくる。という視点では、村外の人も巻き込んで「つながり」を意識した人づくりを進めること。従来型の福祉から転換し、世帯まるごとの「暮らし」を支えるという体制を確立すること。そして、教育の質を高め、地場産業や地域づくりの担い手など、次世代を引っ張っていける人財を育成すること。

「ふるさと」をつくる。という視点では、「住み続けたい村」「住んでみたい村」として選ばれるまちを目指すこと。そして、みんなが「ふるさと東海村」への愛着と誇りを持てるようなまちづくりが必要だと考えています。

今後は、こうした考え方にに基づき、具体的な施策としてとりまとめていきたいと考えておりますので、職員の皆さんも、私の思いをしっかりと受け止めていただき、ともに力を合わせながら、村民の皆さんに夢を与えられるような仕事をしてまいりましょう。

ただし、今は、コロナ対応が最優先であります。第5波は、収束の方向へと向かっておりますが、油断はできません。ワクチン接種をさらに加速させるとともに、社会経済活動の再開に向けて、課題や影響を見極めながら、引き続き全庁一丸となって取り組んでまいりましょう。

以上、3期目の就任式の挨拶といたします。